

<編集後記>

自然に対する感性と自然保護

KONCのジャーナルとして新たな誌名を引き継いだ「地域自然史と保全」の2号目をお届けします。ISSNも新しくなりました。新誌名について大きな反響はないものの、前号で特集を組んだ朽木のトチノキ林が、滋賀県の天然記念物に指定される方向で先日文化財審議会で承認されました。本誌の記事が地域保全にいくばくかの役割を果たしたことを意義深く感じているところです。

今号は、大阪のレッドリストの改訂に向けてシンポジウムを行った際の特集を掲載しています。大阪はもとより、徳島・兵庫の事例を通して、今後の地域保全の要でもあるレッドリストの方向性を考える貴重な記事が集まりました。またKONC研究助成によって学会誌に掲載された報告が3報掲載されています。本会の研究助成が自然に関するあらたな知見を生み、学術論文につながったことをうれしく思っています。さいごに緊急レポートとして、滋賀県犬上川で起こったタブノキ林の誤認伐採について報告させていただきました。保全すべき地点が河川改修の設計図に明記されていなかったという初歩的ミスが、数百年にわたって育まれてきた地域生態系の喪失につながるという残念な事態を招いてしまいました。直径1mを超すタブノキを伐る際、この木を伐ってもいいのか？という少しの疑問を抱いていれば、伐採範囲の誤認を避けられたかもしれません。行政上のしくみの問題だけでなく、自然に対する感性を磨くことが肝要という気がします。地域の自然を次の世代に引き継ぐことは、今に生きる私たちが自然の息づかいを感じる感性を失わないこと・・・なのかもしれません。

先日、大学院のゼミで本会誌の記事を読み、自由にディスカッションするという授業を行いました。中国から来た留学生が、村上先生の巻頭言(32巻1号)をとりあげました。その記事には、「うさぎ追いかの山・・・」は1930年代の原風景を歌ったすばらしい歌であることや、中学生時代にうさぎを捕獲して給食で食べた著者の体験談から、自然の恵みに感謝したことなどが綴られています。さらに、外来生物アライグマなどの駆除が理解されないことを嘆き、「侵略的外来種の根絶は自然再生事業である」と結ばれています。日本人の大学院生はうさぎ狩りをして食べた時代があることにたいそう驚いていましたが、中国の留学生はうさぎを食べる習慣がある(店にも売っているらしい)ことや、高校生の頃に飼っていたうさぎを自分で解体して食べたという体験談を披露し、日本人の院生の間に驚きの嵐が巻き起こりました。自然と食のつながりは深く、また自然観も国によって違いはありますが、確かに、野生動物に対してペットのような間違った感覚を持っている日本人は少なくありません。

近年、アライグマやヌートリアといった外来種、あるいはニホンジカに対する餌付けが問題を引き起こしています。野生動物に対する「餌付け」が自然愛護という勘違いの感性に対して、真の自然保護が浸透するには時間がかかりそうです。

さて今号も興味深い記事を寄せていただいた著者のみなさまに感謝致します。誌面の都合により掲載を見送った若い研究者シリーズは、次号、掲載の予定です。ご期待ください。会員のみなさまの原著論文をお待ちしています。

(前迫ゆり)

関西自然保護機構

名誉会員

千地 万造 宮本 憲一

会長

石井 実

副会長

山西 良平

運営委員

上原 一彦	奥平 敬元	角野 康郎	神崎 護	熊井 久雄
佐久間大輔	布谷 知夫	野寄 玲児	平井 規央	前迫 ゆり
村上 興正	和田 恵次	和田 岳		

編集委員会 (*委員長, **副委員長)

奥平 敬元	角野 康郎	神崎 護**	幸田 正典	高柳 敦
立澤 史郎	布谷 知夫	原田 泰志	平井 規央	藤井 伸二
前迫 ゆり*	山倉 拓夫	和田 岳		

会計監事

原田 泰志 森本 幸裕

事務局長

山西 良平

事務局員

大久保その子

関西自然保護機構への入会希望, その他のお問い合わせは, 事務局までお願いいたします。

お 願 い

1. 本機構では会誌の他に「KONCニュース」を年若干回発行しています。
各地の自然保護に関するニュースを2000字以内でお寄せ下さい。
2. 本機構では, 次のものについて原則として発表先を問わず業績番号をつけることにしましたのでご協力下さい。
 - 1) 本機構が事業として行った調査研究成果
 - 2) 本機構が助成金を交付した調査研究成果
 - 3) 会誌その他, KONC出版物に掲載した調査研究論文
 - 4) 上記研究から派生して得られた結果, あるいは会員が業績番号を付した方がよいと判断されたもの本機構の出版物以外に投稿された場合の業績番号を入れる位置は, 各出版物の規定に従ってください。ただし, 和・欧文とも下記の表現をお使い下さい。
関西自然保護機構業績 第 号
Contribution from Kansai Organization for Nature Conservation,
no. _____
番号はその都度, 編集委員会にお問い合わせ下さい。
3. 投稿規程は, 会誌の奇数号に掲載します。

目 次

表紙の言葉 ナニワトンボ	平井規央
巻頭言	
自然史研究の評価基準を考えるー大学の現場から	角野康郎 95
特集 これからのレッドデータブッケー地域の生物多様性保全のツールとしてー	
大阪生物多様性保全ネットワーク キックオフミーティング「これからのレッドデータブックのかたち」	
開催趣旨	和田 岳 99
大阪生物多様性保全ネットワークの取り組み	道盛正樹 103
兵庫県版生態系レッドデータリストの作成と活用	三橋弘宗 107
大阪府版レッドデータリストの更新にあたってー府内の淡水魚類の現状とリストの活用ー	上原一彦 115
「生物多様性とくしま戦略」の策定と推進にむけた協働	鎌田磨人 119
生物多様性保全施策としてのレッドリスト	佐久間大輔 131
報告	
大阪府南河内地域におけるため池の現状と魚類相, およびカワバタモロコの生息状況	
	吉村元貴・浦部美佐子・鈴木規慈 137
温帯河川の魚類群集における資源利用と種間のニッチ重複の日周変化ー2007年度結果報告	
	中川 光・山根秀征・八杉公基・藤田朝彦・横井謙一・足羽 寛・北田直樹・ 高野裕樹・鈴木規慈・岸本純平・前田 一・山野ひとみ・伊藤毅彦・丸山弘明・ 富永浩史・畠山絵美・後藤元保・高橋大輔 145
奈良県産ニッポンバラタナゴ集団の保護の現状	野口亮太・北川忠生 157
滋賀県犬上川流域におけるタブノキ林の多様性保全の必要性	
	前迫ゆり・野間直彦・金子有子・横川昌史・渡部俊太郎・東 善広 165
編集後記	181

CONTENTS

COVER PICTURE

Hirai, N.: *Sympetrum gracile* Oguma.

KONC SAYS

Kadono, Y.: On the criteria for the works of natural history - a report from the university. 95

FEATURES: Red data book for the next decade - As a tool for biodiversity conservation -.

Wada, T.: Holding purpose : Osaka Biodiversity Conservation Network kickoff meeting	
"Red data book for the next decade".	99
Michimori, M.: Notes on the activities of Osaka Biodiversity Conservation Network.	103
Mitsuhashi,.: Endangered ecosystems of Hyogo Prefecture for conservation planning.	107
Uehara, K.: Revision of the red list of threatened species of Osaka Prefecture. - Current	
conditions of freshwater fish and effective use of the list - .	115
Kamada, M.: Collaborative works for establishing and implementing the biodiversity strategy of	
Tokushima.	119
Sakuma, D.: Redlist as basis for biodiversity policy.	131

REPORTS

Yoshimura, M., Urabe, M. & Suzuki, N.: Fish fauna and current state of irrigation ponds in	
Minamikawachi area, Osaka Prefecture, with the status of endangered cyprinid fish	
<i>Hemigrammocypripis rasborella</i> .	137
Nakagawa, H., Yamane, H., Yasugi, M., Fujita, T., Yokoi, K., Ashiwa, H., Kitada, N., Takano, H.,	
Suzuki, N., Kishimoto, J., Maeda, H., Yamano, H., Ito, T., Maruyama, H., Tominaga, K.,	
Hatakeyama, E., Goto, M. & Takahashi, D.: Diel changes in resource use and diet overlap in	
temperate stream fishes.	145
Noguchi, R. & Kitagawa, T.: Current status of protection of the Japanese rosy bitterling	
population in Nara Prefecture.	157
Maesako, Y., Noma, N., Kaneko, Y., Yokogawa, M., Watanabe, S. & Azuma, Y.: Necessity of	
biodiversity conservation of the <i>Persea thunbergii</i> forest in the Inukami river basin, Shiga	
Prefecture.	165

EDITORIAL NOTES	181
-----------------	-----

地 域 自 然 史 と 保 全 34巻 2号 (通算64号) 2012年12月31日発行
編集発行人 関西自然保護機構
事 務 局 〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23 大阪自然史センター気付
TEL 06-6697-6262 FAX 06-6697-6306
振替口座 00990-2-16679
編集事務局 〒574-8530 大阪府大東市中垣内3-1-1
大阪産業大学大学院人間環境学研究科 (前迫研究室) 気付
TEL 072-875-3001 FAX 072-871-1259
印 刷 所 光栄堂印刷株式会社